

耳塚 寛明 / MIMIZUKA, Hiroaki

理事(副学長)

■研究者情報

連絡先

Email: mimizuka.hiroaki@ocha.ac.jp

専門分野

教育社会学

人間
社会

学力

進路・
格差生成

■研究成果情報

青少年期から成人期への移行についての追跡的研究(JELS)

キーワード

学力形成、進路選択、学歴希望、移行、家庭的背景

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

21世紀初頭の変動社会におけるトランジション・教育システムの“危機”として、社会化（学力・能力・パーソナリティの形成）の危機、人材選抜と配分（職業への円滑な移行）の危機、社会化と選抜・配分を通した平等社会の実現における危機などが挙げられる。どの危機も青少年期から成人期への円滑な移行という観点からみて、そのあり方を再検討することが必要とされる。本研究は日本の青少年の学齢期から青年期にかけてのトランジションの過程を主として縦断的方法によって観察し、学力・能力、アスピレーション、進路・職業生活の統計的ポートレートを手に入れることを目的とする。これを、家庭的背景（社会階層、経済と文化）、学校的背景、地域的背景（労働市場を含む）などの関わりにおいて説明し、政策インプリケーションを得る。

■プロセス

2003年から2011年にかけて、関東地方のAエリアと東北地方のCエリアにおいて、小3、小6、中3、高3コーホートを対象に、①児童生徒質問調査、②同学力調査、③担任教員質問紙調査、④保護者質問紙調査、⑤高3卒業者の決定進路等に関する調査、⑥進路指導担当教員聞き取り調査などを3回実施し、青少年の学力および進路形成過程を総合的に把握し、家庭的背景・文化的・経済的環境と、教師のペダゴジー・進路指導実践との間の相互作用を社会学的に明らかにすることを試みている。学力調査の問題も質問紙調査の設問も独自に設計・開発した。調査の設計図は次のページの通りである。

■研究事例

・小学生の学力について、都市部と地方都市において異なる規定要因が見出された。大都市近郊では、家庭的背景が学力分布を説明する上で大きな役割を果たした。家庭での学習時間以上に、家計所得と教育費投資、保護者の強い学歴期待と学力が結び付いている。一部の地域はペアレントクラシーへの道を歩んでいると推測される。

富+願望=学力

社会貢献実績

- ・研究成果報告書の刊行 JELS報告書第1～14集
(http://www.li.ocha.ac.jp/hss/edusci/mimizuka/JELS_HP/Welcome.html参照)
- ・対象エリアの教育行政、学校、保護者、児童生徒を対象とする調査結果のフィードバック
- ・公開セミナーとシンポジウムの開催
- ・国内・海外の学会における口頭発表
- ・論文、著書の執筆

産学官・社会連携の可能性

- 共同研究／技術提供／知見の教授・共有（公開講座、ワークショップ等の実施／出版／その他）
- ・学校現場と協力して青少年の学力と進路形成に関する応用研究へ発展する可能性があります。
- ・縦断的研究の事例として、パネルデータの蒐集や分析ノウハウの形成に寄与します。
- ・香港、上海で児童生徒質問紙調査を実施し、香港大学、復旦大学と共同して、国際比較研究を進めています。
- ・学力形成、進路形成、学校外教育などについて、公開講座の講師をお引き受けできます。